

大阪から調停に

因島労働争議の調停に立つべく大阪の太政官の淡村榮一外四名は二十日午前三時尾道着杉原争議団長と會見し更に三原町に至りさきに調停に入った因祥會會員森三郎氏につき経過を聴取した模様である尚三庄工場では郡當局の意を受け従来の擧に出つべく諸種の材料調査に着手した趣である適當の調停案を得たならば争議団も決して頑張らないと云つてゐるから次第によつては解決も近きにありと観測さるゝに至つた。

六月二十一日 大阪朝日新聞記事

救護金が着いて大元氣 其後の因島争議

十九日正午因島争議団本部を訪れると折から日本労働總同盟大阪聯合會から送附された救護費三百圓の電報急替が配達された時なので争議団幹部達が顔面筋肉が依に緊張する、直に土生三庄の争議団各支部に傳

令が送<sup>5</sup> 玄米其他の物資調達が續き、一向争議を尻とも思つて居ない様に元氣である、入口の土間は、是れが敷かれて玄米が何斗となく積まれて居る職工の女房や子供が風呂敷を持つて五斗一斗と貰ひに来る、救済部員が討ちよく盛つてくれる争議発生以来因島争議団本部に滞在して争議のリーダーとなつて居る日本労働總同盟関西労働同盟會の金政氏は其後の経過に就いて語る

見れば救済を要する職工家族は土生三庄を合せて二十軒八十名餘りである、救護費は各地の労働組合及び同情者から續々と送致されて居るから、毫も心配はない、争議団では屈辱を忍んで最小限度の要求を提示したのであるが、會社側は頑として拒絶して居る、始終高壓的態度を以つて労働者を脅すから益々反撃心を喚ぶ一方だ、會社側は職工側に無條件で復職することを強要して居るが、何處の争議にも無條件で職工側の復職した處があるものか、因島の争議発生前後各地に争議が起つた様であるが、各地とも労資双方が要求条件を譲り合ひ、歩み寄つて解決されて居る、會社側が一步も譲らなかつたのは、因島だけで餘りに見